

令和4年度第3回釜利谷協議会議事録（3月28日開催）

【出席者】（委員）	小林正稔	しらかばこども家庭支援ステーション	副所長
	佐々木悦子	桜美林大学	入学部アドバイザー
	村上博史	横浜市立金沢中学校	校長
	小國 徹	横浜市立金沢動物園	園長
	伊久美純一	釜利谷高校PTA会長	
	岡本裕子	校長	
（事務局）	副校長	小林隆宏	
	教頭	角本賢一	
	事務長	田中弘子	
	総括教諭	小曲昭男（学校評価部会）	穂積啓之（SSE部会・SLS部会）
		吉田真穂（学力向上部会）	矢島俊也（キャリア部会）
		近藤純子（地域協働部会）	

1 校長あいさつ

- ・年度末のご多忙の中、本日このようにお集まりいただき感謝している。3月1日に卒業式を行った。来賓をPTA会長のみとしたため、皆様を来賓としてお招きできなかったのは残念であった。コロナで入学式は生徒のみの出席の学年であったが、卒業式は保護者2名までの出席とし、多くの保護者の方々がご列席くださり、厳粛な中にも温かな雰囲気で行うことができた。
- ・入学者選抜は2月14～17日の共通選抜、3月9日二次募集の入学者選抜試験を経て合計194名が合格した。昨年度152名の合格者であった。昨年度（令和3年度）の神奈川県中学校卒業生の進路状況によると県内私立高校進学者が1.76%の増加ということなので、昨年の受験生が減ったのはそれも一因ではないかと想像している。今年度受験生は40名ほど増加した。特徴的なことは不登校傾向の生徒が増えている。しかし、本校の現状をいうと、中学校まで不登校傾向のあった生徒のかなりの生徒が釜利谷高校に普通に通ってきて進級、進学、就職している。中には学校説明会で就職を決めたことを皆の前で話したり、3年間の皆勤賞表彰を受けた生徒もいるなど成長した例が多くみられる。
- ・家庭での不安を抱えた生徒が多い、教員だけでなく、SC、SSW、外部機関との連携等多くの方々の支援に支えられている。
- ・PTA活動は伊久美会長のリーダーシップのもと、ICTを活用した情報共有により効率化がはかられ、チームワークよく活動していただき感謝している。このたび高P連から「学び、行動するPTA」団体表彰と神奈川県教育委員会から「優良PTA」として表彰されることになった。
- ・県教育委員会から人命救助をおこなった生徒3人それぞれも表彰された。また、今日の神奈川新聞でアルバイト中に不審に思い警察に連絡し詐欺被害を防いだ本校の生徒の記事が載っていた。始業式で紹介したいと思う。いいことは褒めて、それを披露していきたい。

2 協議

(1) 令和4年度釜利谷高等学校の学校運営について報告

- ・令和4年度学校評価報告

資料参照

- ・各運営部会より報告

資料参照

(2) 各委員より意見・感想

伊久美委員：子どもも無事に卒業でき、釜利谷高校に通ってよかった。

P T A主催の合同清掃や自転車点検等では、生徒とコミュニケーションがとれてよかった。文化祭では生徒たちがクラスの出し物等の準備に熱心に参加している様子がうかがえた。誰もがP T A役員をできるよう、グーグルドライブでの情報共有など工夫しながら、P T A活動のやりやすさを追求し、課題を洗い出して解決した。

小國委員：釜利谷に入って不登校が改善された理由を知りたいと思った。

⇒吉田：少人数で一人一人に目が行き届くのもあると思うが、わかりやすい授業を行うことで、学習についていけなくなる生徒が少なく、生徒自身が満足感をもって学習に取り組んでいるのではないかと。特に教養科目は、基準となる評定平均にこだわらず、生徒の頑張りに応じた高い評価をしている。「教養」の教材については目の前の生徒の実態にあった内容を本校独自で作っている。

図書館の本の貸し出しでは、漫画も貸し出している？

⇒穂積：漫画も貸している。

クリエイティブアンケートで、「学校のホームページを見ているか」の質問に対して、見ていない生徒が多いが、どのようなことが考えられるか？

⇒近藤：入学してからはあまり見ていないようだが、中学生が高校を選ぶ際には、学校ホームページを見て、釜利谷高校に興味をもったり、学校説明会に参加したりする生徒が圧倒的に多い。在校生には、我々職員が見るように勧めてもよいと思う。自分の学校を客観的に見ることによって、自信が持てたり、自己肯定感が高まったりする可能性もある。

村上委員：詳しい資料で説明していただき、日々の学校の様子がよくわかった。

本校から来年度も多くの生徒が入学するが、学び直すことの意識を持たせている。横浜市内の中学生は、非行に走る子は減っている印象だが、引きこもり傾向にある生徒が増えていると思う。定員に満たなくても、むしろ少人数でできるのは生徒にとっては、非常にラッキーなことである。不登校の生徒が登校するようになったのは、クリエイティブの取り組みの成果であろう。マチコミメールに関しては、あまり頻繁に配信してしまうと保護者は慣れてしまいあまりメールを確認しなくなる。私立高校で、1校だけ不登校の生徒のためのクラスを設けている学校がある。週1、2回通い、登校回数が増えてきたらもとの教室に戻すというやり方。金沢中も不登校の生徒のためのサポートルームがあり、不登校児童専任を配置し、生徒の悩みを

そこで聞く。教室での授業の様子をオンラインで見られることもできる。

佐々木委員：2年前から地元中学の学習支援をしている。釜利谷の1年生の中にもそこで関わった生徒がいるが、楽しそうに通っている。1年生が、母校の中学校を訪問して、近況報告と釜利谷の宣伝をする企画は、来年度も続けてほしい。サポートチームの活動にも力を入れて生徒を育ててほしい。1年生は保健室利用が多いが、それは欠席が少なく、頑張っているが耐えられず、保健室を利用しているということなのか？保健室の来室者が多く、養護教諭の負担は大きいと思う。朝食を食べていない生徒が多く、気になる。健康面を重視した指導もしてほしい。

小林委員：辛口のコメントになるが、15年前の理想像の50%くらいには達した。平成9年、これからの義務教育を考えるとという教育委員会の委員をやっていた。当時、会議で「先生たちは子どもの未来を信じますか？」と聞いたところ、みんな黙ってしまった。子どもを見捨ててはいけない。高校は義務教育でないからこそ、しっかり卒業させることが必要で、それが教員の義務である。

釜利谷の先生方は、よく話し合っていることがすばらしい。よいことは、ゆっくりしか進まないが、コツコツ続けることが大事。クリエイティブ初期3校で生き残ったのは釜利谷だけである。

発信力については、参加型にするとよい。学校ホームページは、生徒が作るページや教員が作るページ等があるとよい。PTA発信があってもよい。

もう少し出口（進路）が広がるとよい。魅力的な出口があるとよい。

SSEは、横山先生が全国を駆けまわって講演しているが、すごく反応があった。釜利谷の先生方にもそれを受け継いで、講演してもらいたいぐらいだ。

吉田：釜利谷は、教育相談コーディネータ会議が毎週設けられており、SC・SSW・管理職・養護教諭・各学年の職員1名ずつが参加し、情報交換が行われている。担任だけが問題を抱えるのではなく、メンバーで話し合い、アイデアを出し合って、解決に向けて複数体制で生徒をサポートしている。

小林委員：SCは本来学校を歩き回って、生徒と話すのが仕事。部屋で座っているだけなら誰でもできる。

カウンセリングルームにキャンディポットを置いて、空腹の生徒に糖分を補給し気持ちを安定させたりするとよい。

3 事務局から

(1) 入学式のご案内 4月6日（木）10:30～

出欠の連絡を4月3日（月）までに電話でご連絡ください。

閉会